

# がんの不安語り合う

## 立場超えて「ぬくみカフェ」

国民の2人に1人はがんになると言われる時代だが、多くのがん患者は、心に抱えている不安や悩みを医師や家族に語ることができず、苦しんでいる。福岡ホスピスの会は、いま広がりつつある「がん哲学外来」の考え方に基づいて、5月8日、第一回「がん哲学外来『ぬくみカフェ』」を福岡カテドラル大名町教会で催した。代表の柴田須磨子さん（福岡・西新教会）は、参加した人たちが、立場を超えて思いや苦しみを分かち合う中に、「生きていくために必要な語り合い」が実現しているのを感じたという。

### 福岡・大名町教会で開催

ないこともありすが、今回、「本当の関わり」を感じることができました」と柴田さんは言う。

#### 人生を語り合う

がん患者は自身の生と死に向き合う中で精神的に苦しむが、医療の現場は、患者の症状や治療の説明などで手いっぱいに対応しきれないのが現状だ。

そこで、順天堂大学



代表の柴田さん

さまざまな立場の人が参加したが、涙し、また笑顔で、それぞれが穏やかに思いを語る場になった。

「病気のことは病院で語れても、病で変わってしまった家族や職場、社会との関係を語ることは難しい。家族や友人だからこそ話せ

点に開かれている。カトリック教会が会場になるのは、今回が初めて。

主催した福岡ホスピスの会は、18年前の発足当初から緩和ケア病棟でボランティアを始め、現在も月2回、病棟のイベントなどを手伝っている。しかし、患者との関わりがお茶を手渡すことなどに終始し、「本当の心の触れ合いに至らない」という葛藤も抱えていた。

また、会員にもがん患者や患者の遺族がいるため、柴田さんは、子どもを亡くした親の会を主宰してきた経験

から、会員自身が心の中を語る場を持つ必要も感じてきた。そんな中、昨年「がん哲学外来」と出会い、今年2月にホスピスの会で樋野教授の講演会を開催。これをきっかけに、一般社団法人「がん哲学外来」認定の「ぬくみカフェ」が誕生した。

「『がん哲学外来』のカフェは、悩みや問題を抱える人たちが人生を語り合う場。樋野先生のおっしゃるように、『（マイナス）』と『（プラス）』が生じ、生きていくために必要な『ことば』で語り合う場にな

つていると、やってみて感じました。このカフェを育てていきたい。他のカトリック教会にも広がってほしいです」と柴田さん。次回のカフェは、7月17日午後2時から開催予定。詳細は、☎090-1162-6395（柴田）へ。



5月8日の「ぬくみカフェ」にはさまざまな立場の人が参加

当日の参加者は、準備に当たった会員らを含めて22人。まず、ホスピス緩和ケア病院の八女みどり（杜病院（福岡）院長の原口勝さんによる開会あいさつに続いて、「病気であっても病人ではない」をテーマにした「カフェ」の部で、三つのテーブルごとにお茶を飲みながら語り合った。

「がんになった時から、家族に自分のことを話していない」と言う人や、がんで子どもを亡くした人など、さ